ナキムシなドール。

夜空　美月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ナキムシなドール。

【Ｎコード】
Ｎ３４０９Ｚ

【作者名】
夜空　美月

【あらすじ】
魔法学校に突然やってきた転校生。
「お願いします！私の呪いを解いて！！」
ちょっと待ってそんなこと俺らに出来るの？

プロローグ：転校生に気をつけろ！（前書き）

下手くそなの承知です…

プロローグ：転校生に気をつけろ！

お父様、お母様。
お元気ですか？
私は今日も呪われています。

また転校することになってしまいました。

今日から新しい学校に行きます。きっとまた転校することになるでしょう。

ごきげんよう。

♪

その昔、人々は魔力を手にいれた。個人個人違う魔法を使うようになり、世界の文明開化におおいに役立った。今ではその魔法使いの精度を上げる為の学校に子どもは通うのが当たり前になっている。

「転校生が来たぞ～！！」
朝、登校して教室に入った最初のひとことがこれだ。おはようも忘れているぞと突っ込む気も失せた俺は騒がしい幼馴染みにこう返した。
「女なの？」
健全な男子が転校生で騒ぐ理由なんてそれしか見当たらない。
「おうよ！なんの魔法使いなんだろねえ？」

「ラン、少し黙ろうか」
こいつの予想大会はうるさいから。まったく…
「なーんだよソラトのケチい！オレ泣くよ！？」
「泣いてろ」
そんなやりとりをしていると本鈴が鳴って教師が入ってきた。
「席ー、つけー！」
ランの声はでかいから、みんな転校生の存在を知っているようだ。
いつもより素直に席に着いた。
「もう知っているヤツもいるだろうが、転校生だ。入りなさい」
ガララ、と教室の扉が開く。
すっと入ってきた彼女は黒髪が綺麗に伸びていて
背中まで届いていた。
「はじめまして。スピカ・リアシーです。よ…よろしくお願いします…」
「はい！スピカちゃん質問！」
「は、はい！？」
ランのやつ…ナンパかよ。
「あ、オレ、オランジェット・オーク！ランって呼んで～♪スピカちゃんはどんな魔法が使えるの？」
それは俺も気になっていた。使える魔法は名前や性格や容姿に表れ

る。彼女はわからない…闇？

でもスピカはすごく強張った顔をした。何故？

「スピカちゃん？」

ランも不思議そうに訪ねる。でも一瞬鋭い瞳（め）をするとまた笑顔に戻り

「なるほどー、見てからのお楽しみってわけね♪」

と言って質問をやめてしまった。

スピカはというとホッとした表情をしていた。

「ラン、どうしたんだよ？あんな鋭い瞳、何年ぶり？」

HRを終えたあとランに話しかけた。

ランは一応火の魔法使い。だけど幼い頃から火の扱いよりも危険予知のほうが優れている気がする。こいつは野生動物か。

「んー、野生の勘ってやつ？あの子から危険な匂いがしたんだ」

「闇？」

「近いけど違う。呪いだよありゃ」

呪い…そんなの遥か昔の魔法大戦（マジカルウォー）争の時以来消えたと思っていたのに。

「あんな恐ろしい魔法が現代にもあるのかよ」

「バカだなあソラトは。消えないよ。人が誰かを恨んでいる限り、ね」

ふいにランが笑うのをやめた。俺の背後を凝視している。

「ラ…」

「振り向くな。今振り向くと危ない」

ランは俺の背後を見て、言う。

「何か用かい？スピカちゃん♪」

ランが声に出さずもういいよと言ったので俺もスピカの方を向いた。

「…っ！す、すみません。ボーッとしていて…」

「おやおや？緊張しすぎて眠れなかったんじゃない？わかるよー！」

ややあって、スピカが言う。

「私を助けてください」

…え？

「私の呪いに気づいたあなたたちにお願いします！私を助けてください！」

もしかして、とってもやっかいなことに巻き込まれてる…？

1．彼女の呪いはメデューサ！

「…んなこと言われても…俺らどうすりゃいいわけ？」
突然すぎることに戸惑いながら訊く。

「私は」

スピカは何かを話そうとしたが…

「スピカ？」

一向に喋る気配がない。なんだなんだ？焦らしてんのか？
ランの方へ向くとランは真っ青な顔をしていた。
「ラン！？お前大丈夫か？」
「やっべえ～……捕まっちまった…」
何？何が捕まっちまったなんだよ？

「ラン」
「早くスピカから離れろ！ソラトぉ！！」
咄嗟に得意魔法の俊足で離れると

「ラ…ランっ！？」

ランの姿はなく代わりに

「人形(ドール)？」

ランそっくりの人形がそこにあった。

教室のあちこちから悲鳴が上がる。

「スピカ！！ランに何をしたんだ！！」

ようやくスピカは我に返り、状況を察して悲鳴を上げた。

「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいーっ！！これが、私の呪いなんです…っ！私の知らない間に…私が見た相手を人形にしてしまう…」

「なるほど…んで？ランはどうしたら戻るんだ？」

「そ、それは…私がやります」

スピカがなにやら呪文を唱えるとランは元通りになった。

よかった…

「あー、びっくりしちゃったぜ」

「それはこっちの台詞だラン」

もう一度、スピカの方に向き直る。

「これが、呪いか？」

スピカは無言で頷いた。

「メデューサのことは、ご存知ですよね？」

メデューサ。伝説上の人物でそれはそれは美人だったらしいが嫉妬により艶やかな髪が蛇に変えられ殺されてしまいそれを恨んだ彼女は今でも目が合った人を石にしてしまうという。

「私にかけられた呪いはメデューサの呪いのようなもの。五年前から、こうなんです」

彼女は呪われた原因はわからないらしい。気がつけば人を人形にしてしまっていた。気味悪がられ、親元からも離れて暮らしているという。

「スピカ…スピカ……？」

原因を考えていた俺は、スピカの名前に違和感を覚えた。

だけどそれが何なのかがわからない…歯痒いな。

「うーんとりあえずさ」

ランが言った

「授業、受けてあげようか」

そこにはすっかり存在を忘れられていた教師が涙目で立っていた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3409z/

ナキムシなドール。

2011年12月11日22時52分発行